

十字架上の七つのことば

2026年3月29日
棕櫚の主日～受難週

マタイ 27章 / マルコ 15章 / ルカ 23章 / ヨハネ 19章

I. 捕縛後のイエスの十字架への道

- ①大祭司官邸に連行、カヤパの舅アンナス⇒大祭司カヤパの尋問、平手打ち
弟子たちのこと、数え
- ②長老、祭司長、律法学者たちが最高法院に連れ出し、尋問
「おまえは神の子か?」「わたしはそれを打 神を冒瀆 ∴死罪宣告、十字架刑
しかし、執行権はない(ローマ総督に権限)
- ③ユダヤ人たちはイエスを死刑にするようローマ総督ピラトに激しく訴える
本部:ヘロデ大王の宮殿に滞在
- ④ピラトはイエスに罪を認めず、釈放しようと努めるが、彼らは聞き入れない
- ⑤ " をユダヤの王ヘロデのもとに送る(ハスモン家の宮殿に滞在)
- ⑥ヘロデ・アンティパスもイエスに罪を認めなかった(イエスの沈黙/侮辱)
- ⑦ " はイエスをピラトに送り返した(二人は親密になる)
- ⑧ピラトは群衆とユダヤの指導者たちに、再三イエスの無罪を告げるが、彼らの
「バラバを釈放! イエスを十字架に!」の大声に屈して、彼らの要求を容認
- ⑨イエスは惨たらしい鞭打ちや侮辱を浴び、十字架を担ってゴルゴタへ向かう
クレネ人シモンが替わって十字架を運ぶ
- ⑩イエスと二人の強盗が十字架刑にかけられる

II. 十字架上の七つのことば

- (1)父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているかが分かっていない
のです。 ルカ 23・34 (十字架に釘づけられている時)

「自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」(マタイ 5:44)を実行
ユダヤ人と指導者たち(祭司長、長老)、ローマ兵、無関心・破廉恥な人々

とりなしの祈り(当時十字架の周りにいた人々、後世の人々)

- (2)母に「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」 その弟子に「ご覧なさい。あ
なたの母です」 ヨハネ 19・26～27

母マリアの行く末を気遣って、愛弟子ヨハネに託す
血縁のイエスの兄弟ヤコブやユダは、この時までイエスを信じていなかった

- (3)まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいま
す。 ルカ 23・43

悔い改めた強盗にのみ、約束された 今日=イエスもこの強盗も死ぬ
わたしとともに、パラダイス(信者のたましいが体の復活を待つ所)にいる

- (4) エリ、エリ、レマ、サバクタニ (わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになつたのですか)
エロイ、エロイ、 # マタイ 27・46 マルコ 15・34

罪人のすべての罪を負わせられ、罪の塊として容赦なく神にさばかれた：死
御父と御子の親しい関係は、この瞬間完全に断絶、この上なく恐ろしいこと

- (5) わたしは渇く ヨハネ 19・28

体の渇き、喉の渇きだけでなく、父のみところを成し遂げて御許に帰る渴望
差し出された酸いぶどう酒を受けた

cf. 十字架につけられる時には拒否 マタイ 27・34

苦難をなめ尽くす、敢えて苦痛を緩和しない、意識明確なままにする

- (6) 完了した ヨハネ 19・30

果たすべき贖いの御業をやり遂げた満足、勝利の雄叫び

- (7) 父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます ルカ 23・46

大声で叫び (息も絶え絶えの弱々しさでない ∴ 罪に対する勝利)

多くの信仰者の臨終のことば

III. 結び

- (1) ユダヤ人と異邦人がともにイエスを十字架につけた
- (2) イエスの聖さに対する憎しみ (自分の罪が焙り出されるのに耐え難い) が原因
- (3) 普段仲が悪い者同士が、共通の敵を持つと仲良くなる、そして、同じ対応をする
- (4) 権力者にとって最大の恐れは、権力を失うこと、保身のためには正義を曲げる
- (5) イエスを愛する人たちも無力 (愛はあってもなす術なし)、悲嘆、復活を信じない
- (6) イエスの最高峰の奉仕は、十字架の死 (と後の復活によって罪の赦しと永遠のいのちを信じる者に与えること = 人への愛)
- (7) 父に対する全き信頼と従順によって使命を果たされた (父への愛)
- (8) 肉親の母マリアへの愛 (愛弟子ヨハネに託す)
- (9) 主の十字架に関する預言の数々は、詳細にいたるまで、成就された
- (10) まだ成就していない預言も、時満ちて必ず実現する
神の子とされ、今まだ地上に生かされている (日々の務めを喜んで果たす)
目的地を仰ぎ望みつつ、愛と信仰と勇気をいただいて1センチメートルでも前進